

## 中長期経営ビジョンの実現に向けて、 中期経営計画の完遂に取り組んでまいります。

代表取締役社長

川崎博也



株主の皆様には、格別のご高配を賜わりありがたく厚く御礼申し上げます。

当社グループの2014年度の連結業績は、消費増税の駆け込み需要の反動の影響などがありましたものの、売上高1兆8,868億円、経常利益1,016億円となり、当期純利益も865億円と2期連続で相応の利益を確保することができました。株主の皆様の日頃からのご支援に対し、この場を借りて、あらためて感謝申し上げます。

この結果を受け、当期の配当につきましては、当社グループの成長に必要な投資資金などを勘案し、1株あたり、中間配当として2円、期末配当として2円の合計4円の配当とさせていただきます。株主の皆様にはご理解賜わりたくと存じます。

さて、当社グループは、現在、2013年～2015年を「経営基盤の再構築」と「収益の『安定』と事業の『成長』に向けた布石」を打つ期間と位置付けた3か年のグループ中期経営計画に取り組んでおります。

このグループ中期経営計画では、まず、鉄鋼事業部門を安定収益体質にすること、当社グループ独自のオンリーワン製品・技術・サービスを武器に、国内外の拠点の拡充と、これを最大限に活用した成長分野・地域での販売量確保、財務体質の改善などを掲げました。いずれも着実に計画は進捗しており、業績の回復に貢献するとともに、外部負債残高を大きく減らすなど成果を挙げつつあります。

また、「収益の『安定』と事業の『成長』に向けた布石」として掲げた、高炉の集約をはじめとする鋼材事業の構造

改革や機械系事業の戦略的拡大もそれぞれ順調に進捗しております。

そして、安定収益基盤の中心となる電力供給事業の拡大については、現在、栃木県真岡市でのガス火力発電所建設と、神戸製鉄所の高炉跡地を利用した石炭火力発電所増設の2つの計画を進めており、両計画とも、現在環境アセスメントを実施中の状況にあります。

このほかにも、技術・製品開発の面では、当社グループの複合経営の最大の特徴を活かした取組みを進めています。

例えば、今後ますます強まるであろう「自動車の軽量化と衝突安全性の確保」という、相反するニーズに応えるべく、鉄鋼、溶接材料、アルミといった異なる素材を組み合わせ

た部品「マルチマテリアル」の開発を進めております。

機械系事業でも、今後整備が本格化する水素ステーション向けに、普及のネックとなる省スペース化などの課題をクリアするコンパクトな機器・設備の開発、その他シミュレーション技術の提供などに取り組んでおります。

このように、中期経営計画は順調に進んでおりますが、当社グループは、計画を完遂させるべく、全社一丸となって取り組むとともに、将来の成長に向け新たな挑戦を続けてまいりますので、株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年6月

※中期経営計画の詳細につきましては、当社ホームページをご覧ください。

## 業績ハイライト(連結) (表示金額は、単位未満の数字を切り捨てております。)

